

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、健康的で、自主・創造性に充ちた意欲を持ち、進んで社会と人類の福祉に寄与するに足る人物を育成する学校をめざす。

1) 異世代・異文化交流によって多様性を享受できる、思いやりのある人物を育成するとともに、多様性を享受できる環境を提供できる学校をめざす。

2) 地域連携を通して、自分を取り巻く社会の課題に目を向け意欲的に関わろうとする人物を育成するとともに、地域に信頼される開かれた学校をめざす。

3) 自然災害が多発している今日の日本において、自らの意志によって行動し、己を守り周りを支えることのできる、危機対応に長けた逞しい人物を育成するとともに、危機対応を前提とした安全教育・防災教育を推進する学校をめざす。

2 中期的目標

1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力・支える知恵」の育成に取り組む

ア 教職員からの積極的な挨拶・声掛け等をとおして安心できる環境づくりに努め、すべての生徒に対して規範意識・人権意識の向上を図る。

イ 生徒会活動・学校行事の活性化、部活動の充実化を図る。

ウ 国際交流活動を推進することにより、グローバルな世界観を培う。

エ 「朝の読書」を通して読書を生活習慣の中に確立させるとともに、図書室の役割を強化し、生徒の読書意欲を喚起する環境を整える。

※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和6年度まで90%以上を維持する。(R1 88.8%, R2 90.7%, R3 88.9%)

※年間遅刻者延数前年度比10%の減少を図る。(R1 1285, R2 1570, R3 1363)

※部活動加入率を令和6年度70%以上を目標(R1 62%, R2 54%, R3 47%)とし、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を令和6年度まで80%以上を維持する。(R1 83.1%, R2 79.1%, R3 79.2%)

※海外語学研修および国際交流事業を積極的に展開していく。また、より多くの生徒が関わるができる取り組みとして実践していく。

※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見80%以上とする。(R1 80%, R2 83%, R3 78.8%)

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく

ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす。

イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。

ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。

エ 進学講習を組織的に実施する。

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全進学合格数に占める4年制大学合格者を令和6年度まで55%を維持する。(R1 67.4%, R2 56.9%, R3 55.8%)

※学校幹旋の就職内定率を100%とする。(R1 100%, R2 100%, R3 100%)

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を令和6年度まで80%以上を維持する。(R1 89%, R2 88%, R3 90.2%)

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任・SC・SSW等との面談や対応がスムーズに活用できる体制を構築する。

イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。

ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。

エ 地元自治体や地域との連携のもと、防災・減災に向けた取り組み及び緊急避難対応等への取り組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を令和6年度に70%以上とする。(R1 57%, R2 64%, R3 51.9%)

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を令和6年度まで70%以上を維持する。(R1 76%, R2 83%, R3 86.7%)

※障がいの有無にかかわらず、配慮の必要な生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実。

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

ア 授業において、常に生徒の知識欲や満足度を高めるための研究と実践を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。

イ 学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。

ウ 1人1台端末および全教室ICT機器設置の環境を積極的・効果的に活用し、より魅力ある授業の取り組みを進める。

エ 放課後や休日における学習習慣が定着する取り組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和6年度まで80%以上を維持する。(R1 81%, R2 81%, R3 83.1%)

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和6年度まで90%以上を維持する。(R1 88%, R2 88%, R3 91.7%)

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる

ア 社会の変化に対応し「学び続ける」意識の共有化を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善をさらに推進する。

イ 「働き方改革」や健康管理の観点から、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る。

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケート等を活用して前年度以上に増やす。(R1 78, R2 83, R3 148)

※若手教員技量向上へ(新採3年めまで対象の)新三研修を継続させ、それを全体研修へと発展させていく。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく

ア 【学校を外に開く】自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との交流を通して地域貢献を推進する。

イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、中学校との連携を強化する。

ウ 【学校を外に開く】高石市や近隣自治体の自然災害に関する事業連携を継続し、地震・津波等に対する危機管理意識の更なる向上を図る。

エ 【学校を内に開く】学校説明会、HP等を活用して、積極的な情報発信に努める。

オ 【学校を内に開く】学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会との連携を強化する。 ※地域交流が活発であったか。 ※生徒、教員による中学校訪問合計数 100 件以上を維持する。(R1 114, R2 30, R3 77) ※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数の合計延べ 700 名を維持する。(R1 769, R2 769, R3 710) ※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見 80%以上を維持する。(R1 89.7%, R2 90.8%, R3 91%) ※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 80%以上を維持する。(R1 89.3%, R2 87.2%, R3 83.6%)
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒アンケート】 総じて肯定的な回答の割合が高いが、11「担任の先生以外にも職員室、相談室や保健室等に、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的な回答の割合が 65.1%と低い。生徒が相談しやすくなるように、日頃から教員が生徒との信頼関係を築くとともに、教育相談体制を充実させる必要がある。また、今年度から追加した質問項目の 25「生徒会活動は活発である。」については、特に2年生で肯定的な回答の割合が 72.4%と学校全体平均の 78.6%と比べて低い。その理由をはっきりとはわからないが、生徒会活動の充実に向けた取り組みが必要である。 【保護者アンケート】 質問2「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」については、肯定的な回答の割合は、60.9%と生徒の割合 82.2%に比べてかなり低い。その理由をはっきりとはわからないが、今後も授業改善に向けた取り組みをより一層進めること、及び保護者への情報発信の充実が必要である。質問 14「文化祭の動画を視聴したり、授業参観や PTA 活動などで学校に行ったことがある。」は、今年度は 53.3%と昨年度の 36.6%から大幅に増加したが、まだまだコロナ禍の影響が残っていると見られる。次年度以降はコロナの感染状況や国や大阪府の規制緩和の方向性をみながら、保護者の学校行事等への参加の機会をできるだけ増やしていきたい。 【教職員アンケート】 質問2「校長のリーダーシップのもと、教職員相互の信頼関係に基づいて、教育活動が行われている。」について、肯定的な回答の割合は今年度は 50.0%と昨年度の 41.3%から一定の改善が見られるが、H30 年度の 66.7%に比べると、まだまだ低い。教職員相互の信頼関係を高めるための方法を模索する必要がある。質問 21「朝の読書は、よい取り組みである。」について、教職員の肯定的な回答の割合は 47.1%と保護者の肯定的な回答の割合 93.7%に比べると、大幅な隔たりがある。保護者のニーズが高いことを踏まえながらどのような形で行えばより良い取り組みにできるかを考える必要がある。質問 1「生徒は、いきいきと学校生活を送っている。」、質問 7「本校では、教育活動に必要な情報や連絡事項を、生徒・保護者・地域へ周知するよう努めている。」、質問 9「本校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」、質問 11「本校では、学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。」、質問 17「本校では、教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる。」、質問 19「本校では、教職員の服務やコンプライアンス順守の意識は高い。」、質問 23「本校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」、質問 24「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」の 8 つの質問項目については、昨年度に比べて肯定的な回答の割合が 10 ポイント以上上昇しており、一定の改善が見られている。次年度以降も継続的に取り組んでいきたい。	第1回（令和4年7月11日実施） 〈学校経営計画に関連して〉 ○生徒の部活動加入率の低下について、何が原因なのか。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、自然とそうなったのか、または学校の部活動に対する方向性がその様に変化したのか。この 20 年で見ても、入部率の急激な変化が見て取れる。(元々女子生徒の多い学校であったという事も関係しているかもしれないが。) 〈観点別学習状況評価に関連して〉 ○3 観点すべてが A 評価であっても、5 段階評価で 5 にならないパターンについて、保護者にはどのように説明するのか。 →これまでの評価方法とは異なるという事は説明済みだが、観点別評価では客観的な数字が出ないため、理解してもらうしかない。具体的には、各項目が示されたペーパー試験を実施したり、授業態度や総合的な学習状況などから評価していく。 ○3 観点のなかでは「主体的に学習に取り組む態度」が最も評価するのが困難。他の 2 観点とは違って、ペーパー試験で図ることができない。昨年度から観点別評価を実施している中学校でもかなり難色を示している。改善点等あるが、年度によって変化があると生徒だけでなく保護者も違和感を感じるため、難しい問題だ。 ○世間では働き方改革や、教員の仕事を減らそうという動きがある中で、逆行して仕事量が増加しているように思う。 〈進路状況について〉 ○43 期生が京都市立芸術大学に 1 名進学しているが、よく頑張ってくれている。しかし、年々 4 年制大学を選ぶ生徒が減少していることが課題となっているのではないだろうか。また、合格状況は分かっても実際の進学先は分からない。学校は把握できているのか。 →大多数の生徒が合格した大学に通っていると捉えていただきたい。複数校を受験している生徒たちは、1 校合格すると、第一志望の大学を受験しない傾向が強まっている。 〈生徒状況について〉 ○実際家庭ではどのように過ごしているのか。 →(PTA 会長より) 家庭学習の時間は十分にとっておらず、携帯電話を使用する時間が長い。部活動も途中退部している。最近の生徒たちは人間関係の問題を解決できる力がないのかもしれない。 ○遅刻数や懲戒件数については、20 年前より格段に減少している。教員も生徒もかなり頑張っているように思う。 ○全国的に新型コロナウイルス感染症によって登校できない生徒が増加している。できる限りの対応はしてあげたほうが良い。また、保護者の求める対応に耳を傾けるのはどうか。 ○全国の学生の自殺者の数が世間的に問題になっているが、スクールカウンセラーなどの連携はどのような状況になっているのか。学校に来られない生徒の数は年々増加しつつあり敏感な生徒も多いだろうから、そのような生徒たちのことを気にかけて対策してあげてほしい。 〈生徒会活動について〉 ○新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、行事だけでなく修学旅行も実施できているのは素晴らしい。学校行事では、交流も含め人間関係構築にとって重要である。 ○今年度の文化祭には同窓会員をよんでもらえるかと思っていたが、今年度も参加できなく残念だ。→プロジェクター設置など、多大なサポートをしてもらっているため、前向きに検討したが、生徒の安全安心面を優先させていただいた。 〈PTA 活動について〉 ○昨年度は学校に赴き何かをするという事が一切できなかった。今年度は体育祭時に入校することができた。大規模な体育祭で大いに感動した。文化祭も参加できればと期待している。また、昨年度は文化祭ステージ等の動画配信の URL が手元に来た時、すでに視聴期間が終了していた。 ○文化祭では例年バザーや喫茶を実施していたが、現在の新型コロナウイルス感染症の感染状況下では不可能なため、物品販売などができないか模索中である。 第2回（令和4年12月5日実施） ○かなりの数の報告事例、精力的な活動を行っていて、校長が多忙なのでは？ →教員の負担軽減を図る意味でも、大体において付き添いや指導に関わっている。 ○過去に新型コロナウイルスの罹患した人物が複数回かかっているのか、データが欲しい。 →手元にデータがないので確認できないが、複数回かかっている者は何人かいると思う。 ○重症化している方は？ →重症化したものはいない。コロナ後遺症で学校を休んでいる生徒は何人が確認されている。 ○文部科学省における新型コロナウイルスの対策の変更について、どう対応しているか？ →大阪府教育委員会の示すガイドラインは継続して徹底させているが、これまでの制限等は緩和の傾向にあり、食事の黙食や室外でのマスク着用などについては、現在はこれまでに生徒に対して強くは指示してはいない。各生徒本人のエチケットに任せている。 ○重症化等含め、今後重視し対策をしていくようお願いする。 第3回（令和5年2月20日実施） ○できる範囲で新型コロナウイルス感染症からの立ち直りのサポートしていただいていると感じ

府立高石高等学校

	る。交流事業、学校行事、生徒会活動等非常に活発にしている。学校教育自己診断結果の生徒と保護者の乖離、教職員と保護者または生徒の乖離等の結果について分析はどうなっているのか。 →学習指導要領の関係により、2・3年と1年生、学年によって教え方・評価方法が違い学校の中で別れている状況。また、以前は45分×7コマで授業をしていたが、今年度から50分×6コマと週に2回7時間目の授業を入れる形で実施しており、移行の時期にあたる。生徒・先生ともにリズムが変わり、負担が大きかったと思われる。そのうえで、新型コロナウイルス感染症の制約と緩和のなか、改めて行事・事業を再開しており、個々の先生方に負担が大きく余裕のない状況が続いたためではないかと分析している。 ○コロナ禍においても、先生方の努力で子供たちが楽しめた1年であったと思う。アンケート結果を踏まえ翌年に活かしてほしい。 ○高石高校は部活動が盛んなので、以前のように戻るとよいと思う反面、今後長期的な視野で見た時、先生方に今のまま顧問をお願いしてよいのか心配している。高石高校において、部活動が社会的なかわりとして重要な役割を担っており、バリエーションがあることは良いことだが、負担を先生方に当然のように押し付けるのもいけないと思う。部活動も1つだけに所属するのではなく、複数所属できるようにしても良いのではないか。 ○生徒指導について、遅刻者の数を見ると昔よりずっと減っている。地域の評判も良いし、悪い噂も聞かない。また、今年は保護者にも学校が開かれていた。子どもの学校での様子を実際に見ることができて感動した。 →新型コロナウイルス感染症による制約の緩和で、行事等の様子は見てもらえるが、普段の様子については見てもらえる機会があまりない。次年度の課題にしたい。 ○地域のコミュニティーセンターの利用についてどうなっているのか。 →現在、新型コロナウイルス感染症の関係で利用を控えている。次年度に向けて話を進めていきたい。次年度以降、地域連携に力をいれており委員会を立ち上げている。早い段階で打診していきたいと思う。 ○非常に頑張っていたいただいていると思っている。この調子でお願いする。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校	(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む	(1) ・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。 ・国際交流の機会を増加させる。 ・「第四次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。 ・遅刻者数を減らす。	(1) ・部活動入部率 55%以上 [47%] ・(海外)語学研修等参加件数 1 件以上、海外の学校との交流件数 2 件以上 [語学研修参加数 0 名、交流事業数 1 件] ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 80%以上[78.8%] ・年間遅刻者延数 1300 名以下とする[1363 名]	(1) ・部活動入部率 47.4%。(△) 今年度入学生については、コロナの影響により中学校での3年間部活動が制限されていた影響が大きいと考えられる。 ・海外高校受入れと語学研修者数の合計2名、交流事業3件(オンライン事業含む)。コロナ禍での交流事業としては想定以上だと思われる。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 82.3%。(○)
	(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく	(2) ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。 ・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。	(2) ・4年制大学合格者を、実人数で80%維持する[89%] ・学校幹旋の就職決定率100%を維持する[100%] ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 80%以上を維持する[90.2%]	(2) ・4年制大学合格率90%。(○) コロナ禍で不安材料も多い中、前年度を上回る成果を挙げた。 ・学校幹旋の就職決定率100%。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 94.6%。(◎)
	(3) 安全で安心な学校づくりを行う	(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。 ・教育相談委員会を充実させ、SCとともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。 ・防災・減災への積極的な取組みを図る。また、これらの安全教育や危機管理等の取組みを通して、外部組織・団体との交流や支援活動等を推進し地域貢献を図る。	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%以上とする[63.9%] ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 60%以上とする[51.9%] ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 80%以上を維持 [86.7%] ・生徒による防災・減災の実践報告や発表を3回以上学校内外で実施する[3回] ・防災減災に関連する対外的活動や交流を実施する	(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見 70.6%。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 61.6%。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 92.4%。(◎) ・報告・発表は4回実施。(○) 1学年の生徒と教職員・外部講師にそれぞれ発表・報告済み。高石市役所で3月に3回目の報告会を実施。生徒会執行部は1月に宮城県多賀城市でこれまでの本校の防災の取組みを発表し、交流した。

府立高石高等学校

2 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校	(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる (2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる	(1) ・家庭等での学習を定着させる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究し実践する。 (2) ・授業アンケート結果及び校内外の授業見学を通して、授業改善に取り組む。 ・初任3年めまでの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 ・「府立学校における働き方改革にかかる取組みについて」に沿って、教員の健康管理の観点から、時間外在校時間の縮減を行う。	(1) ・1日平均学習時間 60 分以上 [34 分] ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 73%以上を維持[83.1%] ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を 75%以上維持[91.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「ICT 機器等の効果的活用」の肯定的意見 80%以上を維持[80.5%] (2) ・教員相互の授業見学を 50% 以上 [81.5%] ・全教員の延べ校内外授業見学総数を 100 回以上 [148 回] ・「新三研修」に初任3年めまでの教員が全員参加する ・会議の回数を絞る等の工夫をすることによって、月平均時間外在校時間を前年度実績以下に抑える [22h25min]	(1) ・1日平均家庭学習時間 27 分。(△) 家庭で学習しない生徒が増えている。保護者との連携がより必要。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 82.2%。(◎) 形態を変更したにも関わらず高い評価を得た。 ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 94.1%。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「ICT 機器等の効果的活用」の肯定的意見 87.1%。(◎) (2) ・教員相互の授業見学 79.4%。(○) 見学期間を設ける等の工夫による。 ・全教員の延べ授業見学総数 113 回。(○) ・「新三研修」は、初任3年めまでの教員は全員参加した。(○) ・月平均時間外勤務時間は、29 時間 37 分。(△) 学校行事等が通常に近い形で開催できるようになるとともに、部活動も制限がなくなるなど諸要因が重なって、昨年度から大幅に増加した。特定の教員に業務が偏っている点が課題である。
3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校	(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく	(1) 【学校を外に開く】 ・自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との積極的な交流を通して、地域に貢献する。 ・高石市連携の地震津波合同避難訓練で水平避難を実施。 ・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。 【学校を内に開く】 ・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取組みを実施する。 ・学校情報の外部発信に努める。 ・創立 50 周年に向けて準備をすすめる。	(1) 【学校を外に開く】 ・年6回以上、出前授業や生徒派遣等を行い、諸団体・組織との交流を積極的に図る[5回] ・市との合同避難訓練を実施し、「探究『防災減災』」の成果発表を市と複数回共有する機会を作る ・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする [77 件] 【学校を内に開く】 ・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 700 名を維持する [710 名] また、保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見 80%以上を維持する [83.6%] ・積極的な情報発信に努める。広報紙「たか高トピック」を毎月定期的に発行 ・創立 50 周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持つ	(1) 【学校を外に開く】 ・出前授業や生徒派遣等を年 19 回実施。(◎) ・合同避難訓練は雨天のため、今年度は中止。(△) 12 月に副市長や市職員を招いて成果発表会を実施。また、令和 5 年 3 月に高石市役所に出向き、市長・副市長との意見交換会・報告発表会を行う。(◎) ・外部訪問件数 111 件。(◎) コロナ禍の合間を縫って、精力的に広報活動に努めてもらった。 【学校を内に開く】 ・説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 827 名。(◎) 保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」(＝「高石高校に入学させてよかった」肯定的意見 91.3%。(◎) ・広報紙「たか高トピック」を月刊で発行。周辺施設や来客に配布、HP にも上げ好評を得る。(◎) ・創立 50 周年に向けて同窓会と月 1 度以上の頻度で、高石高校の情報を共有。後援会とも情報共有を行った。(○)